

第二次雫石町 ユニバーサルデザイン計画

雫石町

I 計画の基本的な考え方

1 計画策定の背景及び趣旨

社会全体で少子高齢化や社会情勢の変化、価値観の多様化が進むなか、体が不自由な方や、子供から高齢者まで、さまざまな人が自立した生活を送り、社会参加ができる環境の整備が求められています。

平成17年7月、国土交通省により、『『どこでも、だれでも、自由に、使いやすく』というユニバーサルデザインの考え方を、すべての国土交通施策に取り込んでいく』といった「ユニバーサルデザイン大綱」がとりまとめられ、平成18年6月に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（通称「バリアフリー新法」）が制定されました。

雫石町では少子高齢化が進み、身体障がいのある人の割合も岩手県の平均を上回っており、また、観光客も多く訪れることから、高齢者や身体の不自由な人に対象を限定したバリアフリー（不便さ、障壁をなくすという考え方）だけでなく、すべての人にやさしいまちづくりを推進していくため、平成20年3月に「雫石町ユニバーサルデザイン計画」を策定し、施策を展開してきました。

本年度は上記計画の見直しを行い、平成23年3月に策定された上位計画である「第二次雫石町総合計画」及び関係計画との整合性を図りながら、近年の社会情勢などに対応し、ユニバーサルデザインを計画的に推進するため、本計画を策定するものです。

2 ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインとは、アメリカのノースカロライナ州の建築家で、工業デザイナーでもあった故ロナルド・メイス氏がバリアフリーにかわる概念として提唱したもので、できる限りすべての人に利用可能であるように、「製品・建物・環境」などをデザインするという考え方です。

Universal（すべての、普遍的な）と Design（計画、設計）という2つの言葉を組み合わせたもので、UD（ユーディー）と略して言われることもあります。

ユニバーサルデザインの7つの原則

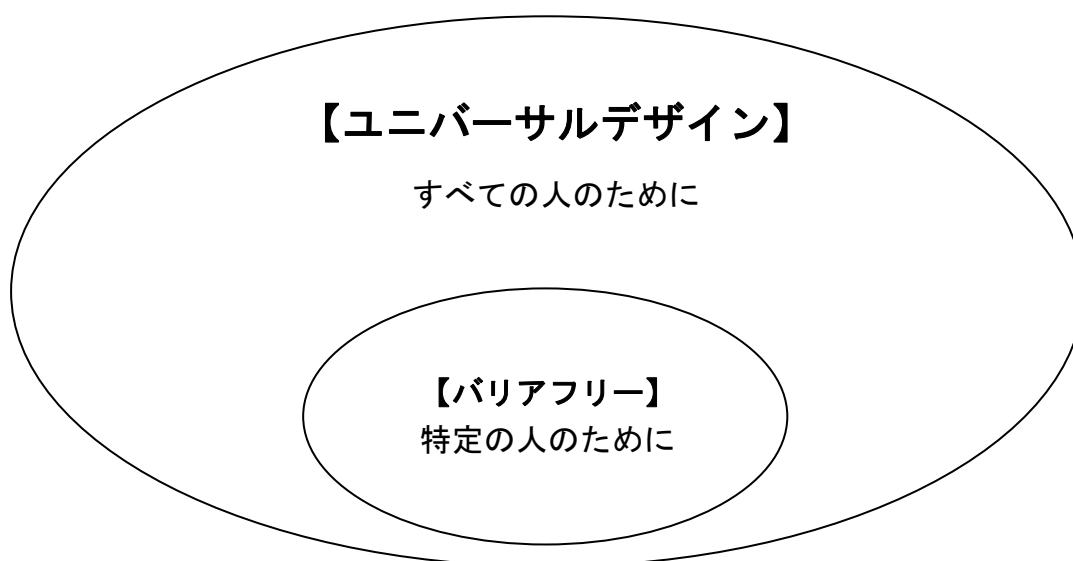
1. 誰でも使えて手にいれることができる（公平性）
2. 柔軟に使用できる（自由度）
3. 使い方が簡単にわかる（単純性）
4. 使う人に必要な情報が簡単に伝わる（わかりやすさ）
5. 間違えても重大な結果にならない（安全性）
6. 少ない力で効率的に、楽に使える（省体力）
7. 使うときに適当な広さがある（スペースの確保）

（注）ユニバーサルデザインの7つの原則は、ロナルド・メイス氏により提唱されたユニバーサルデザインの考え方を1997年にノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンターがまとめたものです。

3 計画期間

平成26年度～平成31年度 6年間

この基本計画は、上位計画の見直し、社会情勢の変化や地域の実情を把握し、必要に応じて見直しをしていきます。



【ユニバーサルデザインで作られている物の例】

○ シャンプー容器のギザギザ

シャンプー容器にギザギザがついており、目をとじていてもリンスと区別できるようになっています。



○ エレベーター

車イスやベビーカー、重い荷物を持っている場合などにも楽に移動できます。

手すりや低い位置にボタンがあり、中の鏡は車イスの人が後ろの安全を確認しながら降りることができます。



○ 多機能トイレ

広い空間で、ベビーシートやオストメイトなどが設置されているようなトイレ。

「みんなのトイレ」となっているものもあります。



他にも、テレホンカードや牛乳パックの切り込みや、ギザギザで回しやすくなっているキャップや持ちやすい形で作られているペットボトル、点字によってアルコール飲料であることが示されている缶、低い所にも押しボタンがある自動販売機、休息ベンチなどがあります。